

森町鳥獣被害防止計画目標評価報告書（平成27年度）

事業実施主体名 (参画協議会名)	構成市町名	実施年度
森町有害鳥獣対策協議会	森町	平成26～27年度

1. 対象地域及び実施期間

対象地域	静岡県森町
実施期間	平成26～27年度

2. 被害防止計画目標の達成状況

被害防止 計画目標	基準年(23 年度)の実 績値 A	目標値 B	目標年(27 年度)の実 績値 C	達成率(%) A - C / A - B	備考
被害面積の軽減 イノシシ	1,226a	820a	283a	232.3%	
ニホンジカ	500a	350a	16a	322.7%	
被害金額の軽減 イノシシ	5,237千円	3,500千円	6,654千円	△81.58%	
ニホンジカ	200千円	140千円	705千円	△841.7%	

3. 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業内容	事業量	管理主体	供用開始日	事業効果
鳥獣被害防止対策 推進事業 ・有害捕獲 ・被害防除  鳥獣被害防止緊急 捕獲活動支援 事業	(H26) [推進事業] 捕獲機材の導入 (イノシシ用箱 わな購入 11基)  被害状況調査用 センサーカメラ の購入 2台  被害防除研修会 (H27.1、1回)  (H27) [緊急捕獲活動 支援事業] イノシシ捕獲 成獣 80頭 幼獣 127頭  ニホンジカ捕獲 成獣 18頭 幼獣 1頭			<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱わなの設置場所が11基増加し、その捕獲実績もイノシシ39頭と、効果的な捕獲につながられた。</li> <li>・被害地区の地域住民に対し、鳥獣を寄せ付けない集落環境づくりや防護柵の正しい設置方法等を研修し、地域のリーダーの育成、知識向上が図られた。</li> <li>・カメラ映像から加害動物の特定や状況が把握でき、効果的な防除対策に取り組むことができたようになった。</li> <li>・被害防除研修会を開催し有害鳥獣の生息状況をあらためて認識した上で、侵入防止の電気柵等を正しく使って防除することを住民に周知し正しく設置することができた。</li> <li>・有害捕獲数が増え、捕獲活動が強化できた。</li> </ul>

#### 4. 総合評価

イノシシによる被害は依然として多いが、箱わなの購入による捕獲機材の増加と緊急捕獲等対策事業交付金の活用による有害捕獲活動の強化により、捕獲数が増え、被害の発生を抑制できた。また、電気柵等による防護柵による被害防除対策で被害軽減されている。被害防除のための研修会を開催し、被害地区住民の意識啓発や被害防除方法の指導を行うことにより、適切で効果的な被害防除方法の知識を広めることができた。こうした活動の取組が被害面積の減少に繋がったと思われる。

一方、被害金額が増加となったが、これは町特産のスイートコーン等単価の高い野菜等の被害が増加したため、被害金額の軽減につながらず目標達成に至らなかったものと思われる。

ニホンジカはここ3年で生息数が急増し、捕獲頭数も増加傾向で、従来は無かった里山集落での目撃数や被害報告も増加しており、今後は抜本的な被害防除対策を行っていく必要がある。とりわけ、捕獲による個体数調整が効果があるため、銃猟や町単独補助事業により導入したシカ用箱わなを活用した捕獲により、被害軽減を図りたい。

町内の状況を見ると、防除対策のなされていない農地や耕作放棄地・放任果樹、誤った設置方法の防護柵等がまだ多く見受けられるため、被害地区の住民に対する研修会によって鳥獣害対策の方法を周知することを引き続き行う必要がある。また、研修会を通じて地域が主体となった自主的な防除を進めるよう住民の意識を変えることも重要である。被害金額及び被害面積を計画どおり減少させるため、電気柵等の防護柵設置推進や有害鳥獣捕獲従事者への捕獲機材の貸与により機材の活用を推進するとともに、捕獲活動経費を支援することにより、引き続き被害防止対策を進めていく。

#### 5. 第三者の意見

被害対策の進め方として、捕獲、防護柵の設置、環境整備のための講習会などを並行して取り組んでおり、非常に評価ができる。イノシシによる被害について、防護柵はすぐに効果が見られるが、捕獲や環境整備などは若干時間がかかることもある。すぐに効果が見られなくても継続的に対策に取り組んでほしい。また、防護柵を設置しても被害があるのであれば、設置の仕方に問題があることが考えられるので、指導を行うことが望ましい。(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)